

きらめき 上條小



校長室だより

No. 3

泉大津市立上條小学校

校長 西鍵 利一 2013.5.31



春の遠足が、5月16日に行われました。私は、例年のように1年生の付き添いとして浜寺公園に行ってきました。行くときは曇っていて丁度よかったんですが、やがて少しずつ雲の切れ間が多くなっていき、お弁当が終わる頃には青空が広がっていました。

ですから帰りには疲れと日差しでグッタリモードでしたが、1年生にとっては小学校初めての遠足、本当によくがんばりました。お弁当の時に学級ごとで仲良く食べていたり、帰りのゴミ拾いも真剣にしていたり、特にエライなあ…って思ったのは、電車の中での態度。担任の先生の「座りません！静かに立って乗ります！」という指示をきちんと守って乗っていました。ほとんどの子は、現時点で順調に小学校生活に慣れてきているように感じました。学校生活の基本は、団体行動と集団規律です。これが当たり前になると、楽しく学校生活が送れます。これから、心も体も大きく成長していってくれることを願っています。手作りお弁当の用意など、保護者の皆様ありがとうございました。



平成25年度 PTA役員の皆様

先日の23日(木)に平成25年度のPTA予算総会並びに委員総会が行われました。今年度PTA役員、学級委員になられて、ご参加くださった皆様ありがとうございました。今年

の予算案が承認され、各学級委員さんの所属する委員会が決定し、その後、委員会ごとに集まって互いの顔合わせと、事業案等の話し合いが持たれました。これでいよいよ本格的にPTA活動が始まります。役員・委員になられた方々は本当に大変だと思いますが、1年間子どもたちのため、上條小学校のためにどうかよろしくお願い致します。

会 長	北 畠 孝 浩	給食 委員長	森 口 美 佳
副 会 長	吉 倉 直 宏	企画 委員長	松 下 美 佐 子
副 会 長	森 尾 由 美	環境 委員長	向 井 ゆ かり
会 計	大 櫛 美 子	文化 委員長	大 中 志 乃
会計 監査	井 上 喜 美 枝	保健体育委員長	橋 本 裕 美 子
会計 監査	井 上 明 子	広報 委員長	川 島 祥 子



緑の募金

今年も児童会の役員の子ども達が、朝に門のところに立って、緑の募金活動をしてくれました。緑が減少していつている現実を見据えての活動ですが、もう1つの意義は、児童会役員の子ども達自身が、朝から門に立ってみんなのために！っていう想いで活動することです。ボランティアの話は切れ切れですが朝礼で子ども達に話しています。ボランティアは、する人にとってお金以上のものが得られます。朝から汗だくになって、声の限りに募金を呼び掛けてくれました。本当にありがとう！ごころうさんでした。募金額は15,869円にもなりました。



先日、1年間の主な行事予定表を配布しました。その中に、『オープンスクール』という行事が入っていたと思います。これは今年初めての試みですので、事前に簡単に説明します。これは普段のありのままの子ども達の様子、学校の雰囲気を見ていただき、感じていただきたいというものです。信頼関係を築くには、学校と保護者がお互いを理解しあうことが絶対に大切です。その理解を深めることを目的に、時間は、朝の9:00からお昼の1:30まで、授業はもちろん、大休憩・給食準備・給食・給食の片付け・掃除などその時間内で自由に参観していただきます。但し私語は厳禁です。静かにじっくりとご覧いただきたいと思います。詳しいことは事前にまたお知らせします。できればこの日程をご予定ください。よろしくお願ひします。 *10月23日(水)・・・金曜日の時間割で

(↓※★は、放課後に学校に遊びに来られない日です。)

3	月	児童朝礼、
4	火	視聴覚(観劇)、歯科検診(1・3・5年、1:30~)、
5	水	諸費振替日、★
6	木	災害避難訓練(予備日 6/7)、プール清掃(予備日 6/13)、検尿二次、
7	金	心肺蘇生講習会(3:30~)、
11	火	なかよし朝礼、授業参観・学級懇談会・5年林間説明会、検尿もれ、
12	水	支援学級春の遠足、委員会活動、
13	木	刈エンターリング大会(3・4限)、歯科検診(4年)、
14	金	歯科検診(2年)、
17	月	交通安全教室(2・3限)、
18	火	社会見学(4年)、歯科検診(6年)、
19	水	教育研究部会 ★
20	木	水泳指導開始、
25	火	児童朝礼、
26	水	クラブ、



山犬クロのものがたり

(前編)



随分昔の話ですが…もう今から30年以上前のこと。私は、そのころ花の20代！何が花かは分かりませんが（^、^；）。その頃は、いわゆるボランティア活動に生涯を投げ打って！！というほどに、自分のすべてを犠牲にしてボランティア活動にめり込んでいました。世間的には今でいうフリーターってやつでしょうか、生活費はバイトして…ボランティアして…バイトして…ボランティアして…という日々。人生設計も何もあったもんじゃなく、しかしこの10年以上に及ぶボランティア活動が、私を予期せぬ教師の道へと進ませたのでした。さてその活動のメインは、夏のキャンプでした。貝塚の山奥にある泉大津市キャンプ場で、ひと夏のほとんどを山暮らし、それを高校時代から続けていました。

そのキャンプの流れは、子ども会がやって来て、1泊2日お世話をして帰っていき、また次の子ども会がやって来て、1泊2日お世話して帰っていき…の繰り返しです。そんなある夏のことでした……キャンプリーダーは、直接子ども達のお世話をする者もいますが、その役目は高校生か大学生にしてもらって、私の役目はキャンプディレクターといって、キャンプ場の責任者という役割です。たくさんの高校生や大学生の指導と、それに加えて裏方の仕事をしていました。裏方の仕事ってかなり過酷で、その1つに、ナイトワークがありました。夜、子ども達や若いリーダーが寝静まってからする仕事で、1つはゴミ穴掘り。普通のゴミは子ども会に持って帰ってもらい、燃えるゴミは焼却するんですが、それでも生ゴミがかなり出ます。その生ゴミを埋める穴を掘るのです。カチンカチンの土、樹木が生えているところは根っこがいっぱいで固いのなんのって。そしてもう1つのナイトワークは、その日に子ども達が食べきれずに残ったオカズ（昼はカレー、夜はおでんと決まっていた）を、捨てるのはもったいないですから、次の日に我々裏方スタッフの食糧にするのです。しかしそのままだと夏の暑いときですから腐らせてしまいますので、その残ったオカズを火にかけるのです。その時に、ただ温めるだけに火をたくのはもったいないので、翌日のプログラムにある“焼き板”作りもついでにしました。こうしてその夏も、每晚每晚そのナイトワークを3～4人でがんばってしていました。眠いのを我慢して夜中の1時～2時まで穴を掘ったり、火を焚くのは辛いのですが、時々、温めたおでんをつまみ食いしながらおしゃべりしてするので、嫌な仕事！っていうのじゃありませんでした。ところが、そのメンバーが1人…また1人と減っていくのです!!エッ！神隠し？いえいえそうではなくて、なんとなんと、毎日のように夜中の12時をまわったころになると、“ウー～ウ～……”と低～い唸り声が聞こえてきて、その声のする方を見ると、鋭い2つの光が暗闇の中で光っているのです。その異様な迫力と、恐怖感に1人ずつナイトワークから抜けていくのでした。そしてとうとう私一人になりました。怖くなかったのかって？私にはそんな恐怖感はありません。

ませんでした。動物は大好きでしたし、それよりも、その唸り声に何か悲しさと寂しさを感じました。次の日も、また次の日も…12時をまわるころになると、唸り声と2つの光る目はやってきました。“クロ！おいで…”私は勝手に“クロ”って名付けました。“何を怖がってるん？大丈夫、怖くないよ。だからそばへおいで…”最初は、まだそれが犬だとも、何色だともわかりません。しかし私には、恨めしい目をした真っ黒な犬の姿に思えました。だから“クロ”って名付けました。そして何日目かの夜、ついに姿を現したのです。うっそうとした木々の茂みを分けながら、ゆっくりと姿を現したのは、中ぐらいの茶色い雑種犬でした。私との距離は10mぐらいだったかな？…。相変わらずの低い唸り声と、そしてよりはっきりと見えたのは、憎しみ色に染まった鋭い目と、唸る口元から見える白く光る牙でした。姿勢を低くして、私と目を合わせたまま、じりじりと一歩…また一歩…と近づいてきました。“クロ！よう出てきたな”“おいで、もっと近くへ”そんな私の声が聞こえているのかいないのか、一歩ずつ…少しずつ…じりじりと近づいてきます。夜の山の神は、そんな二つの命の出会いに息を潜めて、じっと見守ってくれているようでした。なぜ、クロは近づいてきたのか？！…そうなんです、私が一人になったころから、温めていたおでんを、2～3mぐらいのところに投げあげていたのです。私もおでんを食べて見せて…“大丈夫やろ？ほら、私も食べてるし…おいしいよ！おでんは煮詰めたのが一番おいしいんやで”…そう語りかけていると…そお〜と、牙を光らせながら口を開いて…しかし目はじっと私を見据えたまま…そしてついにおでんを…食べてくれました！しかし、食べながらもまだ、目だけは同じ光を放ちながら私を見つめています。“もういいよ、そんな目せんでも”“もう同じ釜のおでんを食った仲間やん”なんて訳のわからんことを言いながら、また1つ次のおでんをもう少し近くに投げやりました。すると今度は、少し早足にそのおでん目掛けて駆け寄ってパクッ！…そしてまた1つ…また1つ…そうする度に、目の光がほぐれていくのを感じました。そしてついに、私の目の前に、手の届くところにおでんを置いてあげました。もうお互いの息遣いが感じられるほどでした。“クロ”…そっと手を伸ばして…静かに…やさしく…私の手をクロの耳元へと…伸ばしてみました…ビクッ！！一瞬反応したけれど…もうクロの目からは威嚇の光は消えていました。そして今度は、クロの頭へ手を置いてみました。そして頭を静かに撫でてあげました。目を細めながら私の手の動きに合わせるように首が揺れました。次に身体をそっと撫でてあげました。森の匂いが舞い上がりました。すると、気持ち良さそうに、私に身体を預けながらジーパンの膝をペロペロとなめました。“ハハ、おでんの催促か？”“ええよ、出会いを祝して…いっぱい食べや”そう言って山盛りおでんをあげました。二人で一緒に食べました。

二つの命が出会った瞬間でした。

(後編へつづく)